



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、子どもたちの健やかな成長のために日々活動している、福島市主任児童委員連絡会会長の古関久美子さんにインタビューしました。



福島市主任児童委員連絡会
会長 古関久美子さん

活動を始めたきっかけは？

福島市の自然や、地域の温かな皆さんに見守られて育った娘二人が社会人となり、私も何か社会に恩返しが出来たらと思っていました。そのとき、当時の第三方面民生児童委員協議会の会長さんから「主任児童委員をやってみませんか」とお声を掛けていただいたのがきっかけです。

活動内容は？

家庭や学校、そして地域の中で、子どもたちが健やかに育つよう見守るお手伝いをしたり、保護者さんや学校からのご相談に応じたりしています。担当地区をお持ちの民生児童委員の方から情報をいただき、行政や関係機関と連携して対応することもありますね。

未就学児とその保護者さんを対象に、子育てサロンも開いています。日頃から顔の見える関係を

築いていると、何かあったときに保護者さんもお話しやすいですから。私は市のこんには赤ちゃん応援隊としての活動も行っているの、赤ちゃんが生まれたご家庭を訪問して子育ての悩みなどを伺ったりもしています。

地域に密着した活動を通じて、児童虐待の予防などにつなげていけたらと思います。児童虐待の予防・早期発見には早めの対応が大事です。もし近所でおか気になることがあれば、ささいなことでも結構ですので、地区の主任児童委員や民生・児童委員、児童相談所にご連絡ください。

印象に残っていることは？

東日本大震災ですね。うちの子育てサロンにはいつも20〜30組の親子が参加していました。震災の翌月は参加者がゼロでした。そこで、参加されていた全ての保護者さんに連絡を取ったところ、約半年後には「帰る拠点がある」と皆さん戻っていらして、私たちがやってきたことの意義を実感しました。こうして関わらせていただいたお子さんや、新米パパ・ママ

今後の展望は？

市内には、現在53人の主任児童委員がいます。皆さん優秀な方ばかりです。それだけに、各地域に主任児童委員がいることを市民の皆さんにもっと知っていただきたいです。お住まいの地区の主任児童委員が分からない場合は、市の地域福祉課や、各支所に聞いていただければ分かります。子育てで何か困ったことがあれば、一人で抱え込まずにぜひ気軽にお声を掛けてください。地域全体で子ども達を見守り、育てられたらなあ、と私たち主任児童委員はいつも願っています。



▲子育てサロンで親子と触れ合う



We Love ♥ ふくしま！

第4回『さくら想』

市制施行111周年目の新年度がスタート。福島市は待望の中核市に移行しました。

福島駅東口の駅前通りはレトロモダンなレンガ調にリニューアル。明るく開放的な駅前通りで行われた「ハルフェス」は、これまで以上にぎわいで、まちづくりの新しい息吹を感じました。

また、この春の変化といえば、桜の開花が大きく早まったことでしょう。

晴れの門出には桜の花が良く似合います。中核市のスタートや入学式を桜の花が祝福する中で迎えられたのは、いかにも「花も実もある福島市」らしい。

4月初めのウォーキング行事も例年よりも多い参加数となり、春爛漫のふくしま路をお楽しみいただきました。

一方、花見客の受け入れ態勢が整わず十分におもてなしできなかったり、日程を前倒しできなかった花見客に春の福島市の魅力を実感いただけなかったりしたのは、何よりも残念です。

福島県出身の自然写真家鈴木一雄さんによると、福島県は

桜の魅力番付東の横綱に位置する「桜県」だそうです。福島市の花の魅力は、阿部さんの花見山公園をはじめ、チャレンジガーデンも、市民の皆さんが自主的に担っているのが最大の特徴。本当に感謝です。

今後、花の無い時期をできるだけ少なくしつつ魅力を高めていくには、市民の皆さんの取り組みの連携を図り、桜など花の種類や開花時期の多様性を高めていくことが重要になると思います。

また、私の長年の夢は「花富士」。雪うさぎが現れるころ、山頂に桜の花の雪を頂く「花富士」も出現する。そして街なかにも花と緑。オールふくしまで、花のまちづくりを進めていきましょう。

花シーズンの次は、いよいよ「実」のシーズン。福島市の果物が今年もおいしくできますように！

福島市長 木幡 浩



▲ウォーキングイベント参加者の皆さんをお見送り



▲花見山周辺から望む吾妻小富士の雪うさぎ